の覺悟なかる可からず。近頃社界改良論頻りに起り種々なる目論見實行せらるれども其實績の思はしからざるは一に婦人の修養に缺くる所多ければなり。

盲目で聾で啞でありながら北米の某大學を卒業した、名高きヘレン、ケラー孃と云ふは、觸覺がよく發達して居て、其指先を人の唇と咽喉とに當てゝ居れば、能く其人の話を聞くことが出來、美術品なども能く手探ぐりで彫刻の巧拙を批評すると云ふことである。何とえらいものではないか。

女子の修養に就きて

下田歌子

凡そ學問でも技藝でも、たゞ先生に習つたばかりで、打捨つて置いては何にも成りませぬ。その習つた事を忘れぬ樣にお復習をして、そして猶其れが果して實地に行はれ得るか否かを考究し、若し甘くゆかぬのはどう云ふ譯であるか、どの點に違算があるかと云ふ事をよく〳〵調査し、そして其短きを足し、冗なるを省き、漸々學理を實地の應用に成功するやうにせねば成りませぬ。況んや、修身齊家の如きは、猶更理論ばかりではゆかぬ。善く常識に達し、機變の智に富み、しかも確乎不拔の精神を養ひ、所謂溫嚴宜しきに適ふやうにやらねばならぬのですから、其れには實際實地に就きて、斯道に適する行ひをした人の傳や談話を聞

くことが、非常に爲になります。依て私が今般人の勸めに依つて、世に公けにすることに致しました「女子の修養」といふ書は、もとより始めより順序を立てゝ、書き綴つたものでは無くて、時々事に遇ひ、物に當つて、見るまゝ聞くまゝ將た思ひ出づるまゝを談したのを、側らに居る門弟達が筆記したのを集めたのですから、其足らざる所補はまほしき事も多くありますが、足らずながらも、ありのまゝのものですから、寧ろ却て女子修養參考の一端になる所があるかも知れませぬ。

家庭教師

女子高等師範教授　中村五六

高貴又は有福の家庭にては教師を己が家に聘して其子女の教育を托するものが近來著るしく其數を增した樣であるが職業の種類と社會上の地位とによつては家長や主婦が自分で子女を教育することか出來ない事情もあるから是は一面から見れば確かに世の一進歩に違ない。此意味から論ずると家庭教師は家庭教育の擔任者である。處で家庭教育は元來訓練を主とし教授を從とす可きもの、學校教育は教授を主とし訓練を從とす可きものであるから家庭教師は自然訓練を主として働かなければならないものである。然るに今世上一般の所謂家庭教師なるものを見ると云ふと唯兒童が學校に於て學習する諸學科の復習又は豫習を施すに過ぎないで、訓練などは丸でそつちのけなのが比々皆然りと云ふ程である。是は頗る喜ばしからぬ現象と云はねばならぬ。子供は學校に於て衆人同時に教へらるゝよりは家庭に於て個人的に教へらる方が